

生命と環境Ⅱ —共に生きる！地球と私たち—

山田 孝・三小田博昭
高橋 伸行・川合勇治
山田 玲子・今村敦司

【抄録】 高校1年の総合人間科は、高校3年間の総合人間科の入門的な位置づけである。特に高校から入学してきた生徒には、附属学校での総合学習に慣れるためにも重要である。中学から進学した生徒にとっては、中高6カ年での折り返しである。それは、3年間中学で学んできた内容を再確認し、それを高校から入学した仲間に対して「チューター」として「教える」ことにより、「総合人間科」の学びを確かなものにしていくのである。また、「生命と環境」という学年テーマは、現代世界の今日的な課題に直結しており、さらに高校一年生の多様な興味関心にも対応できるテーマであると考えられる。また、今年度は研究協議会で総合人間科の発表を行った。発表を行う過程でも新たな学び合いの雰囲気も形成されてきた。こうした1年の取り組みを報告する。

【キーワード】 生命と環境 共生 生き方 研究協議会

はじめに

総合人間科の学年テーマ・学習形態の全体像（中学から高校まで）を確認すると。

中学1年 「生き方を探るⅠ」	個人学習
中学2年 「生命と環境Ⅰ」	個人学習・グループ学習
中学3年 「平和を学ぶⅠ」	グループ学習・広島修学旅行

とまとめることができる。

そして、高校1年では、学年テーマ「生命と環境Ⅱ」を設定して、学習形態としては個人学習で行う。

さらに、高校3年間の総合人間科の学習の流れを大まかに整理すると、

“自己発見” = 興味関心の発掘 学び方を学ぶ

自己学習力を高める = 問題（課題）設定

調査方法の学習 実地体験と分析法



学ぶことの楽しさの発見・社会とのつながりの実感
自己の存在意義の実感

高校2年 「平和を学ぶⅡ」

グループ学習・沖縄研究旅行

“自己拡大” “自己表現”

集団学習力を高める（自己からの発信、他者とのコミュニケーション）

高校3年 「生き方を探るⅡ」 個人学習

“自己実現” 自覚的な人生の選択

ということになる。

この3年間の見通しの基に、高校一年生の総合人間科

が始まる。

1. 仲間作りとしての林間学校

高校へ入学して4月～5月は仲間作りである。併設型中高一貫校としての特色は、高校から新たに生徒を迎えることである。このため、4月に入学してから林間学校までの間は、附属中学から来た生徒と高校から入学した生徒の融合をはかることになる。融合という観点からも総合人間科が機能することになるのだが、学ぶ仲間作りの前にクラスの融合、学年の融合を準備するために林間学校に取り組む。

そして、林間学校での総合人間科の取り組みとしては、茶臼山にある矢作川の水源探索と現地で行われる「利き水」体験である。「利き水」体験では、水源の水や名古屋の水道水、ミネラルウォーター等の水を飲み比べて高校1年の学年テーマ「生命と環境」への関心を高めることを意図している。

これらの林間学校での活動をふまえ、総合人間科への学習を進めるためのオリエンテーションを開催する

2. 第1回総合人間科オリエンテーションより

(1) 学習方法についての紹介

各クラスの総人委員会から代表して3人の発表（附属中学出身者の研究紹介）を行い、附属中学出身者による総合人間科のガイダンスとなる。各人が中学2年生の時に研究したテーマについて説明を行い、高校1年生の「総合人間科」の授業の導入を行うのである。

A組 吉本伸広「飲料水について（水の循環）」

B組 下出悠介「ユニバーサルデザイン社会の実現に向けて」

C組 山部尚孝「生活排水の影響と処理の仕方」

(2)学年テーマの確認

学年の大テーマは「生命と環境Ⅱ」であり、これは「総合人間科」創設以来のものである。それに対してサブテーマは、学年で設定することができる。学年テーマをよりイメージしやすいように、自分たちで決めるのである。今年度は、共生をイメージして「共に生きる！地球と私たち」とにした。

そして、実際の研究活動では、生徒1人ひとりが個人研究テーマを見つけやすいようにいくつかのキーワードも提示している。キーワードの例としては、「いのち 地球 心 身体 福祉 生き方」などが考えられる。

具体的には、高校1年の総合人間科の基本方針（「学習の手引き」より）をテキストにして、全体へのオリエンテーションをおこなう。

その一節を紹介すると

『一人一人が自分の学習したい研究テーマを設定して調査研究を行います。

学年テーマが「生命と環境」ですので「いのち」・「福祉」の問題から「環境」に関する問題まで幅広く自分の興味関心のある問題について個人研究テーマを決めることができます。

そして、各人が目的意識を持ち自己を見つめ、自己を発見し、自己を拡大していく取り組みです。最終的には、自らの人生を自覚的に選択できるような「力」を育てることが目的です。』

このように「学習の手引き」で紹介してあるように、高校1年生では幅広く個人テーマを設定できるように「生命と環境」という学年テーマになっている。これは、高校での「総合人間科」の入門記として重要だと考えている。高校での主体的な学習である「総合人間科」のスタートとしては、誰でもが取り組みやすい、幅広い課題がふさわしいのである。

(3)公開授業の目的と意義

まず公開授業の意義としては本校で行われている総合人間科の授業を幅広く全国からの参加者に知ってもらうことである。全国で実施している「総合的な学習の時間」を研究・学習している参加者の方の学習の場とする。

私たちの目的は、各グループで個人研究してきた内容を全体場で学び合うことである。これは、グループでの発表会は行ってきたが、全体で聞くのはこの場がはじめてとなる。様々な観点からの研究を学び合うことにより「生命と環境」という学年テーマについての共通の理解を深めることを目的としている。個人研究テーマで、一人一人の研究は深まりるが、他のグループ、他の研究を学び合うことにより幅広く理解を広げようとする目的としている。

個々人の幅広い研究テーマを、「生命と環境」という大テーマから考えて今日的な現代課題について全体での

確認の場として、ともに学び合うことを目標とした。個々人のテーマにより細分化した現代世界の課題を研究協議会の発表を通じて再構成して一つの大きなテーマへ還元させることも大きな使命であった。

☆研究協議会までの総人の予定

- 2月 5日（木） 全体指導
- 6日（金） 授業後 発表準備
- 10日（火） 発表者の配布資料印刷

☆公開授業の流れ

はじめの言葉発表会の主旨説明（司会）
グループよりの発表

川合グループ

- ・水野 透 「人間の感情と身体能力ー強気・弱気の状態ー」
- ・野口 圭 「筋肉とは何だ」

高橋グループ

- ・吉川 博展 「理学診療」
- ・一田小友希 「SARSの現状と予防」

山田れグループ

- ・伊藤 翼 「医療倫理 ～医療事故と患者～」
- ・野原 望 「Freedomを探せ」

今村グループ

- ・横澤 雄介 「色の人に与える影響」
- ・田端 千晶 「インテリアコーディネイトと現代」

山田たグループ

- ・森下亜沙美 「東洋人差別ーyellow monkeyー」
- ・後藤 聖也 「次世代のエネルギー利用」

三小田グループ

- ・福井 聡子 「地球縮小」
- ・榊山 亮 「航空機エンジンの排出ガスの環境汚染」

終わりの言葉

《総合人間科の歩み》

	日 時	活 動 内 容
第 0 回	4 月10日	総合人間科オリエンテーション
第 1 回	4 月24日	林間準備
第 2 回	5 月 8 日	林間準備
	5 月22日	林間学校 (21～23日) 体験講座 自然・環境について体験的共感を広げる クラス討論会 個人研究の導入 学びの手引き ヒント
第 3 回	5 月29日	アンケート 研究テーマの絞込み グループ分け
第 4 回	6 月12日	個人学習 グループ別会合
第 5 回	6 月26日	グループ別 個人テーマの検討Ⅰ
第 7 回	7 月10日	グループ別 個人テーマの検討Ⅱ
第 8 回	9 月 4 日	グループ別 個人テーマの検討Ⅲ
第 9 回	9 月18日	フィールドワーク先を検討
第10回	10月16日	フィールドワーク先決定
第11回	10月30日	フィールドワーク準備
第12回	11月13日	フィールドワーク実施
第13回	12月11日	フィールドワーク報告会
第14回	1 月15日	研究集録完成・研究協議会準備
第15回	1 月22日	研究協議会準備
第16回	2 月 5 日	研究協議会準備
	2 月13日	研究協議会 発表
第17回	3 月 5 日	高校2年生による沖縄研究旅行の報告 (1時間)
第18回	3 月11日	高校2年の沖縄研究旅行に向けて (1時間)

個人研究テーマ・フィールドワーク訪問先一覧

A組

テーマ	訪問先
競技スポーツにおける選手の心理状態とパフォーマンスとの関係	春日井市民プール
病院の環境について	名大医学部基礎看護学専攻基礎看護学講座
進化(植物)	農学部 服部一三先生
現代の看護	名大医学部基礎看護学専攻基礎看護学講座
最先端医療	名大医学部内分泌移植外科
ドーピングーその実態と人体への影響ー	名古屋大学保健体育センター
小児外科学から見る移植	医学部小児外科学 安藤久實先生
戦争・紛糾の中で生活する人々	国際連合地域開発センター
未来を創る教育	椋山女学園大学附属小学校
司法制度改革後の民事裁判	法学部 本間靖規先生
歌(音楽)と人のつながり	岐阜県飛騨流葉自然休養村
遺伝子と性格	よつば相談室
未確認生物と目撃環境	農学部 山県先生
食品が身体に及ぼす影響	農学部応用生命科学
障害児教育	名古屋市児童福祉センターわかくさ学園
バスケに適した体をつくるには	城山中学校
生活環境が影響させる現代人の心理	積水ハウス名古屋営業所
老人介護施設について	老人福祉施設平田豊生苑
癌	愛知県がんセンター
人との接し方・接する上で考える必要のあること	教育学部心理発達科学 増田尚史先生
発展途上国の生命と環境の現状	国際連合地域開発センター
災害救助犬 東海地震	名工大 小野先生
心安らぐ家	光崎敏正建築創作所
脳と心との関係	環境学研究科環境医学研究所第三部門高次神経統御神経免疫
遺伝子診断やES細胞など現代医学	名大医学部勝又先生
運動能力向上ートレーニング方法とその理由ー	名古屋大学保健体育センター
世界はどのように成り立っているか素粒子	理学部 中西先生
海が私たちに与えるもの	増澤先生
保育	教育発達科学研究科 速水 先生
言葉と幸せ	精神発達臨床学講座
地球を縮めてみたら人と地球	環境学 高野先生
建築と環境問題	R & S 設計工房
ロボットと環境	豊田工業大学機械システム系研究室知能ロボティクス担当
人権侵害	名古屋南部法律事務所
変化する日本語	文学研究科人文学専攻 高橋亨先生
脳死について	掖済会病院 林本隆幸先生
建築と介護のつながり	リハビリテーションセンター
中高生の仲間意識と友達関係	心理社会行動科学講座
癌について	愛知県がんセンター

B組

テーマ	訪問先
犯罪者の気持ち	精神発達臨床学講座
アメリカの黒人問題～キング牧師の涉外から考える～	南山大学外国語学部
観客から見た舞台	ロシアバレエスクール
SARSの現状と予防	名大医学部附属病院
摂食障害～拒食・過食～	発達心理精神科学研究センター
消えていく日本らしさ	丸栄 催事部 平野さん
水素の力～燃料電池の開発～	名古屋大学理工科学総合研究所
スポーツ心理学	愛教大体育教室
アジアの国の状況と日本からその国への支援	アジア保健研修所 (AHI)
現代の社会環境が及ぼす教育	教育学部 植田先生
ネット犯罪の罪の意識	精神発達臨床学講座
ダイオキシン	環境学研究科 神沢先生
大気汚染について	環境学研究科 永尾先生
双子の心理学	なし (夏休みに東大附属にて実施済み)
薬の副作用について	愛知県薬剤師会
航空機エンジンの排出ガスの環境汚染	三菱重工業小牧工場
インターネットのメリット・デメリット～顔の見えないやりとり～	学校情報環境学講座
水素の力～燃料電池の開発～	名古屋大学理工科学総合研究所
森林の現状 言葉の不思議	環境学研究科 柳下先生
遺伝子組み換え作物について	生命農学研究科植物遺伝育種学専攻
人の性質と性格を見抜く	よつば相談室
自閉症	春日井コロニー自閉症・発達障害支援センター
学校教育の教科外の活動で子どもの心はどう育つか	心理社会行動科学講座
土	土と命を考える会
馬の生態 どのうよに進化したか	駒立乗馬クラブ
趣味と健康	名大医学部老年科学科
現代のバイオテクノロジー	名大農学部
スポーツ時の心と行動のつながり	春日井市民プール
人の運動の限界	名古屋大学保健体育センター
人間の感情と身体能力－強気・弱気の状態－	名古屋大学保健体育センター
スポーツと理学療法	名大医学部保健学科
障害のある人がするリハビリとその体	名古屋医療福祉専門学校
人の死 尊厳死	大学院医学系研究科老年科学 益田先生
ドーピングが人体へ及ぼす影響	名古屋大学保健体育センター
時間によるコミュニケーションの変化	南山大学人文学部心理人間科
子供の成長と周囲の人々の心理変化	山口朋子さん
人種差別について	教育発達科学研究科 高井次郎先生
理学診療	名大医学部保健学科
競技スポーツで身体能力を最大限に発揮するためのモチベーションの高め方	名古屋大学保健体育センター

C組

テーマ	訪問先
競技スポーツにおける選手の心理状態とパフォーマンスとの関係	春日井市民プール
病院の環境について	名大医学部基礎看護学専攻基礎看護学講座
進化（植物）	農学部 服部一三先生
現代の看護	名大医学部基礎看護学専攻基礎看護学講座
最先端医療	名大医学部内分泌移植外科
ドーピングーその実態と人体への影響ー	名古屋大学保健体育センター
小児外科学から見る移植	医学部小児外科学 安藤久實先生
戦争・紛糾の中で生活する人々	国際連合地域開発センター
未来を創る教育	椋山女学園大学附属小学校
司法制度改革後の民事裁判	法学部 本間靖規先生
歌（音楽）と人のつながり	岐阜県飛騨流葉自然休養村
遺伝子と性格	よつば相談室
未確認生物と目撃環境	農学部 山県先生
食品が身体に及ぼす影響	農学部応用生命科学
障害児教育	名古屋市児童福祉センターわかくさ学園
バスケに適した体をつくるには	城山中学校
生活環境が影響させる現代人の心理	積水ハウス名古屋営業所
老人介護施設について	老人福祉施設平田豊生苑
癌	愛知県がんセンター
人との接し方・接する上で考える必要のあること	教育学部心理発達科学 増田尚史先生
発展途上国の生命と環境の現状	国際連合地域開発センター
災害救助犬 東海地震	名工大 小野先生
心安らぐ家	光崎敏正建築創作所
脳と心との関係	環境学研究科環境医学研究所第三部門高次神経統御神経免疫
遺伝子診断やES細胞など現代医学	名大医学部勝又先生
運動能力向上ートレーニング方法とその理由ー	名古屋大学保健体育センター
世界はどのように成り立っているか素粒子	理学部 中西先生
海が私たちに与えるもの	増澤先生
保育	教育発達科学研究科 速水 先生
言葉と幸せ	精神発達臨床学講座
地球を縮めてみたら人と地球	環境学 高野先生
建築と環境問題	R & S 設計工房
ロボットと環境	豊田工業大学機械システム系研究室知能ロボティクス担当
人権侵害	名古屋南部法律事務所
変化する日本語	文学研究科人文学専攻 高橋亨先生
脳死について	掖済会病院 林本隆幸先生
建築と介護のつながり	リハビリテーションセンター
中高生の仲間意識と友達関係	心理社会行動科学講座
癌について	愛知県がんセンター

高等学校 総合人間科 学習指導案

指導者 川合勇治 山田玲子
山田 孝 今村教司

1. 日時・場所 2004 (平成16) 年2月13日 第1総合教室 2・3限目
 2. 学年・生徒 高校1年 118名
 3. 学年テーマ 「生命と環境Ⅱ」 **「共に生きる！地球と私たち」**

4. 学年の目標

「生命と環境」という学年テーマの学習を通じて、一人一人が主体的に学ぶ姿勢を育てる。三年間の総合人間科の学習を通して、各人が目的意識を持ち、自己を見つめ、自己を発見し、自己を拡大していく取り組みのスタートとなることを確認する。最終的には、自らの人生を自覚的に選択できるような「力」を育てることを目的とする。

5. 指導計画

	日時	活動内容
第0回	4月10日	総合人間科オリエンテーション 学年テーマと研究内容について
第1回	4月24日	林間準備
第2回	5月8日	林間準備
	5月22日	林間学校(21~23日) 体験講座 自然・環境について体験的共感を広げる クラス討論会 個人研究の導入 学びの手引き ヒント
第3回	5月29日	アンケート 研究テーマの絞り込み グループ分け
第4回	6月12日	研究グループスタート(6展開) 個人学習 グループ別会合
第5回	6月26日	グループ別 個人テーマの検討Ⅰ
第7回	7月10日	グループ別 個人テーマの検討Ⅱ
第8回	9月4日	グループ別 個人テーマの検討Ⅲ
第9回	9月18日	フィールドワーク先を検討
第10回	10月16日	フィールドワーク先決定
第11回	10月30日	フィールドワーク準備
第12回	11月13日	フィールドワーク実施
第13回	12月11日	フィールドワーク報告会(グループ別)
第14回	1月15日	研究集録完成・研究協議会準備
第15回	1月22日	全体会・研究協議会準備
第16回	1月28日	グループ別発表会(2グループ合同発表会)
第17回	2月5日	研究協議会準備
	2月13日	研究協議会 発表

6. 本時のねらい

代表生徒の発表を通じて、一年間の学習のまとめを行う。様々な観点から「生命と環境」という学年テーマにアプローチして、学年テーマについて共通認識に至り、次へのステップ(平和学習・生き方・キャリア意識の形成)とする。

7. 本時の授業

- (1) 目標
 ・自分の関心のあるテーマだけでなく、他の視点や考えについても目を向けていく態度を育てる。
 ・生徒自身の活動により議論を深め、学び合う姿勢を高める。
- (2) 授業形態
 生徒の発表によるディスカッション形式の授業
- (3) 本時の指導計画

時間	学習内容	指導内容・留意点	評価の観点
導入 5分	司会のあいさつ	司会より本日の授業についての趣旨説明 本日の進行(流れ)を全体で確認	生徒自身による自己評価・相互評価を行う
展開 90分	各グループから研究報告 6グループからの研究発表を行う グループの活動紹介 発表者(パネリスト)の発表 補足説明 質疑応答	各グループの発表は15分程度に簡潔に 他のメンバーからの補足説明 同じグループ内での理解を深め、共感を広げる	発表者(パネリスト)だけでなく、参加者(フロアー)も積極的に参加し、相互評価を行う 発表者を評価するだけでなく参加者も自己評価を行う
	6グループの発表をうけて、学年テーマ「生命と環境」についての多面的な理解を深める		相互評価では、発表者へのアドバイス・コメントも記入する
まとめ 5分	終わりの言葉	記録用紙・評価用紙に記入	各人で評価用紙に記入